繁殖和牛の島＜小豆島、豊島＞をめざして
～繁殖和牛増頭対策～

東部家畜保健衛生所小豆支所
○山下洋治、光野貴文

１　はじめに

官牛放牧の歴史と、全国に先駆けて黒毛和牛肥育が始まった小豆島、酪農の島として名を馳せた豊島も、現在は牛肉の輸入自由化や輸送コスト問題、老齢化、後継者不足などにより急速に戸数、頭数ともに減少してきている。

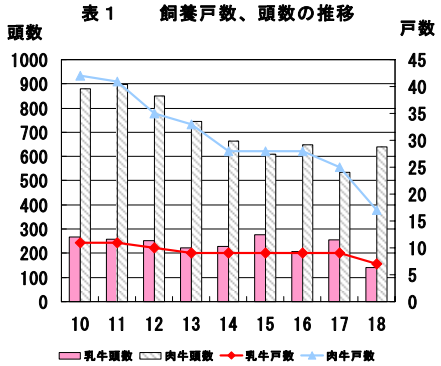
このため、今回香川県の島しょ部である小豆郡の畜産の生き残りをかけて、繁殖和牛増頭対策を推進した結果、若干の効果がみられたので、その概要について報告する。

２　小豆郡の牛の飼養状況

１）平成 10 年からの飼養戸数・頭数の推移

酪農は、平成 10 年の 11 戸 268 頭から平成 18 年の 7 戸 140 頭であり、戸数は約 40%、頭数は約 50%減少していた。

肉用牛は、平成 10 年の 42 戸 881 頭から平成 18 年の 17 戸 640 頭であり、戸数は 60%の減少、頭数は規模の大きな農家が残っているため 30%の減少にとどまっている（表１）。

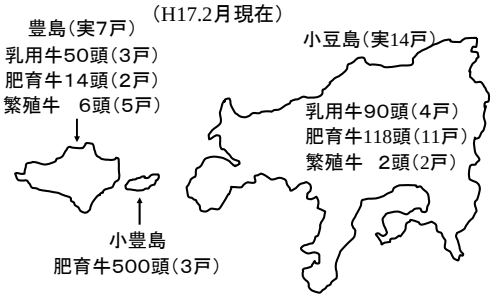


２）平成 17 年 2 月現在の飼養状況

平成 17 年 2 月現在の小豆郡の地区別の飼養状況は、乳用牛が小豆島で 4 戸 90 頭、豊島で 3 戸 50 頭、合計 7 戸 140 頭と近年非常に少なくなっている。

また、肉用牛については、肥育牛が小豊島で 3 戸 500 頭、小豆郡全体で 16 戸 632 頭を飼養しているものの、繁殖和牛は 7 戸８頭と少なく、乳用牛、肉用牛とも急速に戸数、頭数とも減少していた（図１）。

図1　小豆郡の牛の飼養状況
（H17.2月現在）



３　小豆郡の畜産の今後の方向

このように、小豆郡の畜産の問題として、酪農の戸数・頭数の減少に加え、島しょ部であるが故の輸送コスト問題、老齢化、後継者不足、更に酪農では生乳の計画生産、乳質の自主規制により、経営が一層厳しいものとなっている。

このため、農家と関係機関で協議した結果、コスト・労働力を低減し、繁殖和牛農家への転換を図ることとなった。

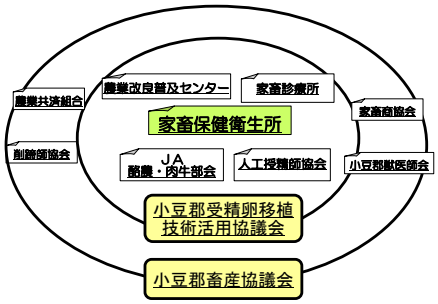
そこで今回、我々は関係機関と協力して島しょ部での畜産を継続し経営安定を図るため平成 17 年度から繁殖和牛の増頭対策を実施した。

４　繁殖和牛増頭対策取組みの組織

繁殖和牛増頭対策は、小豆郡畜産協議会が中心となって取組んだ。小豆郡畜産協議会は、小豆郡の畜産振興を目的として、畜産関係９団体により昭和 43 年に設立し、家畜保健衛生所は当初から事務局を担当し、協議会の企画や各団体との連絡調整等を行ってきた。

また、畜産関係５団体からなる小豆郡受精卵移植技術活用協議会では、家畜保健衛生所は、受精卵移植の技術面をサポートするとともに、農家と関係機関との調整を行ってきた（図２）。

図2　繁殖和牛増頭対策取組のための組織図



５　繁殖和牛増頭対策

両協議会で協議決定し、具体的に取り組んだ繁殖和牛増頭対策は、以下の５項目である。

１）移動放牧による飼料コストと労働力低減

飼料コスト低減や老齢化、後継者不足を補うため、移動放牧を推進した。家畜保健衛生所は県の事業である移動放牧実施展示事業を農業改良普及センターとともに、農家に推進した。距離的な障害もあり、畜産試験場の放牧馴致された牛を利用することができなかったため、畜産試験場からは電牧柵などの器材を借り受け、畜産課からは農家への管理委託料の提供を受け、農家自身の飼養牛を利用し、移動放牧を実施した（図３）。

移動放牧の実施状況は、平成 17 年７月から平成 18 年６月までに、３戸８箇所で実施した。放牧期間は、放牧地の草の状況、放牧牛の分娩予定の状況などから 14 日から 94 日間で実施した。放牧面積は、８ａ～１８ａの範囲で実施した（表２）。

写真１、２は豊島地区での移動放牧風景である。写真１は放牧前(H17.10.17)の風景で、写真２は放牧後（H17.12.27）の風景である。牛が見えないほど雑草が生い茂っていた耕作放棄地であったが、70 日後には写真２のごとくほぼ雑草が食べつくされた状態になり、現在は自給飼料が作付けされている。

このように、移動放牧は耕作放棄地の有効利用や景観保全にも役立っている。

図3　移動放牧実施のフロー

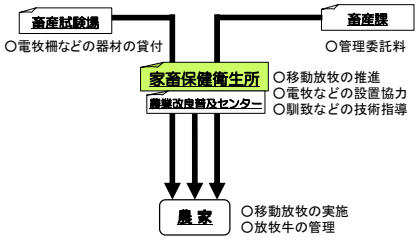


表2　移動放牧の実施状況

農家(年齢)	場所	放牧時期	期間(日)	面積(a)
A (58才)	豊島1	H17.7.27～H17.8.10	14	8
	豊島2	H17.8.10～H17.8.28	18	9
	豊島3	H17.8.28～H17.9.15	18	12
	豊島4	H18.3.14～H18.5.5	52	12
B (56才)	豊島5	H17.10.17～17.12.27	71	12
	豊島6	H18.1.26～H18.4.30	94	18
C (66才)	滝宮1	H18.4.26～H18.5.31	35	12
	滝宮2	H18.6.1～H18.6.29	28	8

写真１　豊島での移動放牧（放牧前）

写真２　豊島での移動放牧（放牧後）

２）小豆郡で初めての採卵による新鮮卵移植の実施

和牛子牛生産を加速するため、小豆郡で初めて和牛から採卵を実施し、新鮮卵移植を実施した。家畜保健衛生所は、採卵・移植を実施する家畜診療所、検卵・受精卵処理を実施する畜産試験場及び実施農家の中心に位置し、供卵牛・受卵牛の選定などの技術面のサポートや、日程時間調整を行った（図４）。

平成 18 年２月に、畜産試験場のＥＴ車を活用して、初めて小豆島で採卵を実施した。正常卵４個が採取され、２頭の乳牛に新鮮卵移植を実施したところ、１頭が受胎し、無事に雌を分娩した。この雌子牛は母牛として育成しており、将来の供卵牛候補としている（写真３）。

また、平成 18 年 11 月にも、初めて豊島で採卵を行ったが、正常卵が採取されなかったため、同期化していた受卵牛３頭に凍結卵を移植した。

今後とも小豆郡内での採卵および新鮮卵移植を予定しており、優良繁殖和牛の生産を加速したいと考えている。

図4　採卵・移植までの家保の役割

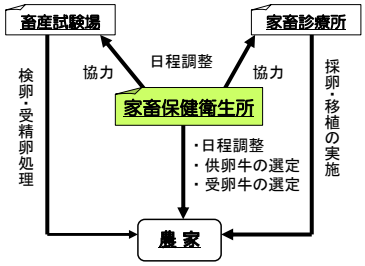


写真３　豊島での採卵・移植

３）優良繁殖和牛導入による供卵牛の確保

平成 17 年、18 年度に地域肉用牛振興特別対策事業、認定農業者チャレンジ農業推進事業などの国、県の助成金を活用し、これまでに 11 頭の優良繁殖和牛を導入した。表３に、その導入牛の血統を示した。大部分が妊娠しており、今後これらの血統の和牛子牛が生産されるとともに、供卵牛にもなり、小

表3　優良繁殖和牛導入

NO.	生年月日	父	母の父	母の祖父	人工授精成績（妊否：精液）
1	H17.6.5	安平	隆桜	照久	○：茂勝栄
2	H17.4.4	美津福	北国７の８	紋次郎	○：北　仁
3	H17.3.16	福栄	平茂勝	神高福	○：北　仁
4	H17.2.11	福栄	第２平茂勝	忠福	○：北　仁
5	H17.7.15	平茂勝	糸北鶴	高茂	○：松福美
6	H17.3.23	平茂勝	北国７の８	菊照土井	○：讃岐美方
7	H17.8.22	第２平茂勝	美津福	安平	妊娠待ち
8	H17.6.26	第２平茂勝	金幸	神高福	妊娠待ち
9	H17.5.2	第２平茂勝	糸北土井	気高富士	○：讃岐美方
10	H17.2.11	第１花国	第７糸桜	菊照土井	○：北湖２
11	H17.4.10	茂重桜	糸晴波	糸光	○：讃岐美方

豆郡の繁殖和牛の素となっていくものと思われる。平成 19 年度についても引き続き 10 頭程度の導入を予定している。

４）技術研修会の開催

酪農家は肉牛の血統については素人同然のため、畜産試験場から講師を招き、肉牛の枝肉成績からみた血統について、また、家畜保健衛生所職員による肉質とビタミンＡの関係などの技術研修会を開催した。

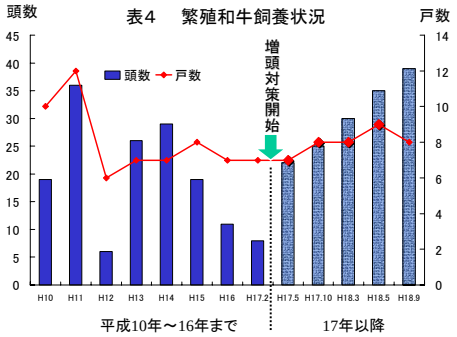
５）酪農・和牛繁殖複合農家への視察

酪農家から乳肉複合経営への移行、繁殖和牛農家への転換を予定している農家のため、ＪＡの肉牛、酪農部会と連携して、酪農・和牛繁殖複合経営農家の視察を実施した。また、どのような血統の子牛が人気があるかを勉強するため和牛子牛のセリ市場の視察を実施した。

６　結果

平成 17 年から推進を続けている繁殖和牛増頭対策についての効果は、酪農家の繁殖和牛農家、また乳肉複合への経営転換がまだ継続中であり、経営面のデーターはまだ出ていない。このため、経営安定の種となるであろう繁殖和牛の頭数を繁殖和牛増頭対策の効果とした。

表４は、平成 10 年からの繁殖和牛の飼養戸数、頭数の推移である。戸数、頭数とも減少傾向にあり、平成 17 年２月には７戸８頭であったが、平成 17 年からの関係機関の協力のもとに行った繁殖和牛増頭対策により、平成 18 年９月現在までに８戸 39 頭に増加した。今後とも各対策の効果により増加することが予想される。



７　考察及びまとめ

今回、各種繁殖和牛増頭対策を実施した結果、繁殖和牛の飼養状況は対策前の平成 17 年２月の７戸８頭から対策後の平成 18 年９月の８戸 39 頭と増加が認められた。増加した牛は、一部がＥＴ由来によるものであったが、大部分が導入によるものであった。

これは今回の対策で、１）コスト・労働力低減が図られる移動放牧実施により高齢者でも容易に増頭が可能となったこと、２）助成金を活用した優良繁殖和牛の導入を推進したこと、３）技術研修会・視察により酪農家から乳肉複合経営への移行や繁殖和牛農家へ転換する自信ができたことから、多くの農家が繁殖和牛導入に踏み切ったためと考えられた。

また、今後これらの導入牛から採卵・新鮮卵移植の実施により低コストでの和牛生産も加速することが見込まれ、今後、島内産の繁殖和牛が益々増加してくるものと思われる。

以上今後とも、関係機関とともに、各種繁殖和牛増頭対策を推進し、肥育牛の島〈小豊島〉に加え、繁殖和牛の島〈小豆島、豊島〉となることをめざし、伝統ある小豆郡の畜産の生き残りをかけて、畜産農家を指導する。